

# 大谷さんと付き合って40年

松澤 通生

最初の出会い: 1974年 春

# ご一緒させて貰った会議・事業等

## 1) 名古屋大ープラズマ物理研

Atomic and Molecular Data

収集

⇒核融合研

## 2) The China-Japan Joint Seminar

1985 第1回 成都: 楽山: 武漢: 合肥

高柳、渡部、蟻川、中村

鈴木、大谷、松澤

(1992 第4回 南大沢 (都立大) ⇒ AISAMP1)

## 2) 第一回日中セミナー (成都1985)



## 2) 第一回日中セミナー (成都 1985)



都江堰：成都郊外の灌漑施設  
秦の始皇帝の統一前に完成

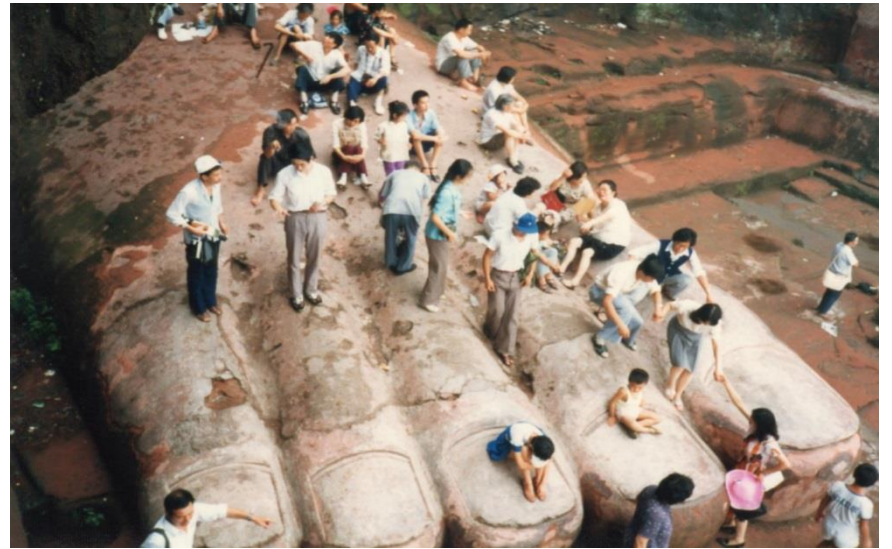
# 樂山(1985)

- 西南物理研究所



# 樂山(1985)

## 樂山大佛



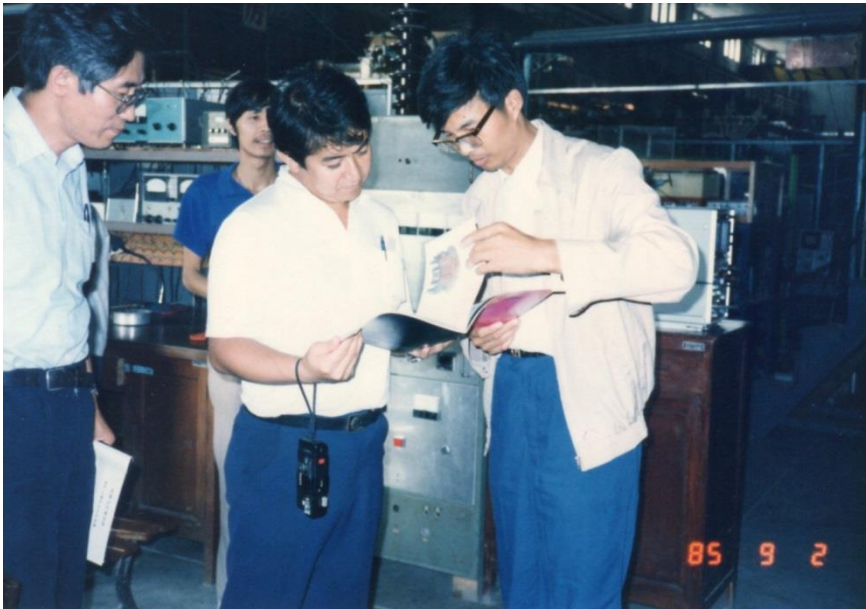
# 武漢(1985)

- 中国科学院 武漢物理研究所
- 武漢大學



# 合肥

- 中国科学技术大学
- 国家同步辐射实验室
- 等离子体物理研究所





### 3) 重点領域 多価イオン

1990年:大谷さん

名大プラズマ研⇒電通大レーザー研

多価イオン科学「平成4(1992)年度発足)」

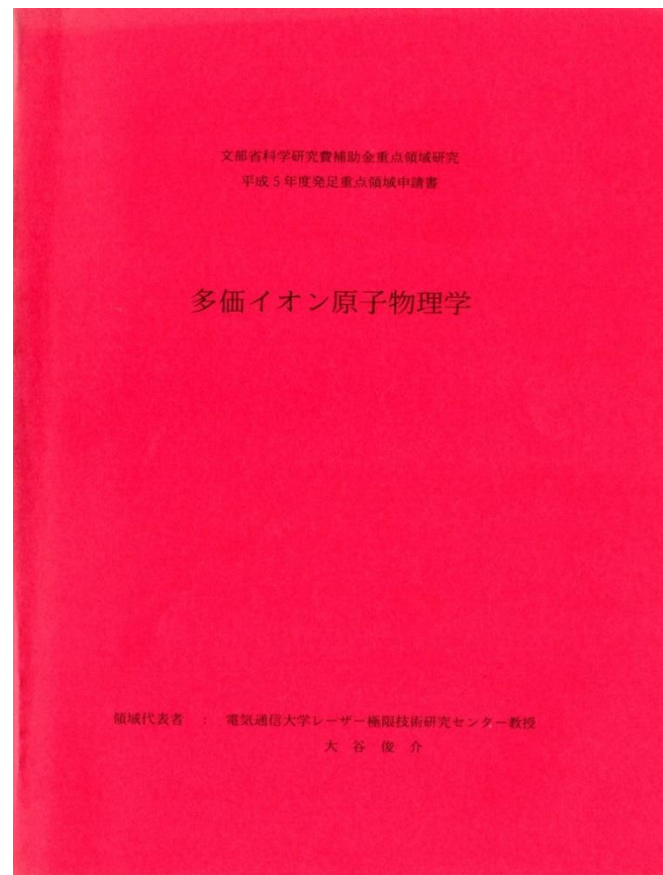
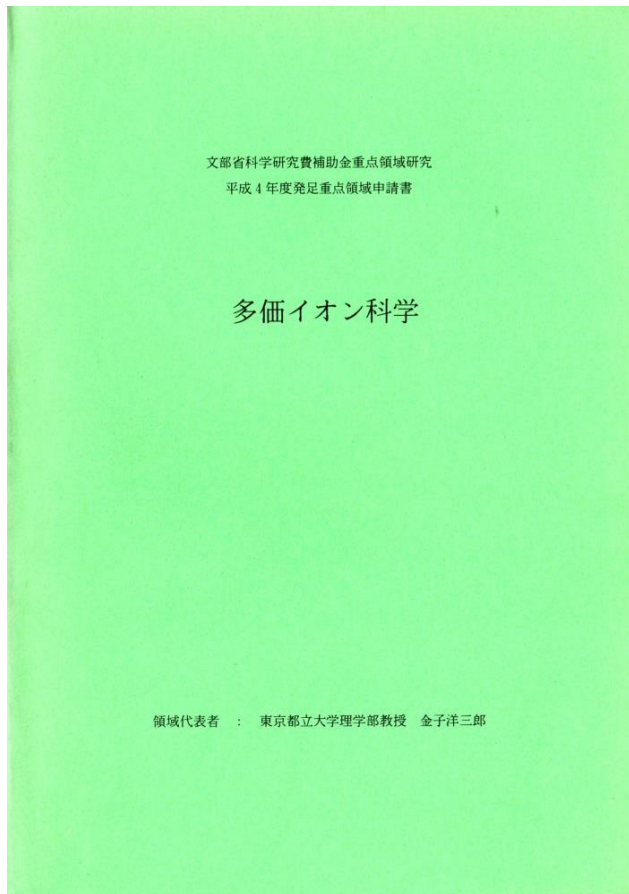
領域代表者 金子洋三郎

多価イオン原子物理学

「平成5(1993)年度発足)」

領域代表者 大谷俊介 ⇒電通大EBIT

# 3) 重点領域 多価イオン(cont.)



# ご一緒させて貰った会議・事業等 (cont.)

## 4) The Fourth China-Japan Seminar AISAMP1 (南大沢 都立大、1992)



# ご一緒させて貰った会議・事業等 (cont.)

5) 21st ICPEAC (仙台:1999)

\* 1993 Arhus ICPEAC : 日本開催決定

International Conference on the Physics  
of Electronic and Atomic Collisions

経済不況：募金委員会委員長代行

⇒ International Conference on Photonic,  
Electronic and Atomic Collisions

# ご一緒させて貰った会議・事業等 (cont.)

京都 ICPEAC の20年後

参加国 36

参加者 565

アジアで2回目のICPEAC

# ご一緒させて貰った会議・事業等 (cont.)

\* A SHORT HISTORY OF CULTURE  
AND SCIENCE IN SENDAI

(slightly biased in favour of them)

written by Hiroshi Suzuki

with the advice of Takeshi Namioka and  
Shunsuke Ohtani)

Shell-like Structure of Nuclei T. Hikosaka 1934

# ご一緒させて貰った会議・事業等 (cont.)

6) AISAMP5 (奈良 2002)

大谷さん: treasurer

7) 原子分子物理学ハンドブック

(朝倉書店 2012)

編集: 市川行和、大谷俊介

ご清聴

ありがとうございました。